

『日本語や日本の文化を海外に広げる』

英語コミュニケーション学科3年 K.A.

<はじめに>

私がドリームプラン奨学金を応募したきっかけは、大学の先生からのご提案だった。去年の夏に初めて海外ボランティアに参加しようとしたところ、ドリームプラン奨学金を活用したらどうかというご提案を大学の先生からいただいた。しかし、お話をいただいた時期はすでに募集が終了してしまっていたので応募することができなかった。そして今年、新たに海外ボランティアに参加することになったのでぜひ活用したいと思い、応募した。

<活動内容>

2023年8月27日～9月17日の3週間、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコにある George Washington High School で日本語教師アシスタントとして日本語や日本の文化を現地の高校生に教えた。1年生と3年生の計5クラスを対象に、主に生徒のグループワークやペアワークの相手役、自己紹介と日本文化紹介のプレゼンテーションを行った。また、担当の先生が欠席された日に先生の代形で100分間の授業を3回行った。

日本語の授業では、1年生は日本語で挨拶の仕方や自己紹介、単語、数字の数え方の練習を行った。3年生は、時制やつなぎ言葉の使い方、将来の夢に関する授業を行った。教科書は使用せずに、学ぶ内容は全て先生がスクリーンに投影し、それをみんなで見ながら学ぶという形式だった。生徒自身が動いて学ぶ、参加型の授業であった。

自分の自己紹介では、趣味や自分の生活している町、大学そして将来の夢などを英語と日本語を使用して紹介した。1年生には主に英語で時折日本語を混ぜながら紹介した。3年生には日本語のみで自己紹介を行った。さらに授業の一環で、3年生は自己紹介を聞いた後に私が話した内容をグループでまとめ、それに関する質問を考えるという活動を行った。また、自己紹介の内容を元に「私」という人物について考えて日本語で発表するという活動も行った。

日本文化紹介では、剣道を紹介した。竹刀を使用して実践例を提示したり、自分の過去の試合動画と友達の現在の試合動画を使用したりした。「侍」と多くの繋がりがあるアメリカ本拠地の映画「スターウォーズ」と絡めて、日本とアメリカとの繋がりを生徒の興味の出る形で紹介した。また、日本から持参した新聞紙を使用して生徒と一緒に

に兜を作成した。織り方をスライドで大きく提示することで、全員がスムーズに兜を作ることができた。

担当の先生が欠席された日は、マニュアルを預かり、先生の代行として1年生を対象に100分間の授業を3回行った。新しいことを教えたのではなく、これまでの復習をメインに授業を行った。いつも授業で使用していたスクリーンや音楽が使用できなかったため、説明や雰囲気づくりにかなり苦戦したが、生徒たちが協力的に動いてくれたためすべての授業を教えきることができた。

<気づき・考えたこと>

このプログラム中で一番印象的だったことは、生徒たちの授業の受け方である。アメリカ人だからと言って必ずしも授業に積極的に参加するわけではなかった。渡米前は、アメリカ人は日本人よりもよく話すので、授業風景もまた日本とは違っているのだろうと思っていたが、実際は日本と比べてあまり差はなかった。積極的に質問する生徒はいたが、私が思っていたほど多くはなかった。高校生だったので、思春期が関係しているのかと考えたが、それ以外にも理由があった。今の高校生くらいの年代の子供は、生まれたときからスマートフォンが身の周りにあるせいで、人と話す機会が減ってしまっていると現地で授業を担当してくださった先生が教えてくれた。これだけではなく、スマートフォンが生徒の考える機会を奪ってしまっているという。わからないことがあるときは、スマートフォンで検索をかければすぐに探していた答えが見つかる。それが当たり前になってしまっているため、最近の子供たちはインストラクションに対する理解度が低いことが分かった。テストでも、インストラクションに書かれていることをしっかりと読まないまま、わからないところを先生に質問する生徒や指示とは違うことをした生徒を数名確認した。このようなスマートフォンに関する問題はアメリカに限らず、日本の子供にも言えることではないかと思った。

以上のような経験を通して、「オーディエンスに注意を向けて物事を考える」ことが大切であることを学んだ。生徒の理解度によって、説明の仕方を変えることで彼らにとってよりよい授業をすることができる。担当してくださった森川先生は、ベテランで多くの受賞歴がある。この背景には、日々生徒のことを考えた授業づくりをされているからだと思った。同じ内容の授業でも、前の時間の生徒たちの反応を参考に、後の授業ではより伝わりやすい方法で授業を行っていた。毎時間授業準備を怠ることなく、常にオーディエンスを考えて授業を改善し続けてきたことが、森川先生が多くの生徒に支持される理由の一つであると思った。「オーディエンスに注意を向けて物事を考える」という学びは、教師だけではなく、どの仕事においても重要な考え方である。将来、どのような場所に就職するかはまだ明確ではないが、どの職についても今回の経験で学んだ「オーディエンスに注意を向けて物事を考える」ことは意識して行動していきたいと思う。

